

# 山行報告

## ■ 2021年国民平和行進

●日 程：7月12日(月)～16日(金)

●コ ー ス：太平洋コース・兵庫/二見市民センター～岡山/JR寒河駅

日程	行進区間	参加者
7月12日	二見市民センター～高砂中央公民館	砂川(延) 須増 徳本
7月13日	山電飾磨駅～姫路市役所～大手前公園	天野 上田 尾内 大谷 砂川(延) 須増 松下 三木(悦) 森本 矢根
7月14日	太子町役場～たつの市役所	砂川(延)
7月16日	JR寒河駅前・岡山へ引継ぎ	須増

※7/7 大阪から引継ぎ区間参加・須増

## ◆ 2021年国民平和行進に参加して・・・7月13日 上田

コロナ禍で国民平和行進も様変わりした。2019年までのこの日は高砂市役所から姫路の大手前公園まで、翌14日は山電飾磨駅からたつの市役所まで、参加者はそれぞれの団体旗を林立させて、シュプレヒコールや歌で沿道の人々に「核兵器のない世界を」「一歩でも二歩でも一緒に歩きましょう」とアピールしながら行進したのだが、コースは山電飾磨駅から大手前公園までとなり、先導する宣伝車からの訴えはあるが、「サイレント行進」で静かな行進になった。

山電飾磨駅を10時出発、飾磨街道を北上して姫路市役所へ、ここで姫路市長と議長の挨拶を受けて大手前公園まで約2時間半の行進だった。

この日、高御位山遊会からは10名が参加し、労山の他の会の参加者もあるので、全体の参加者が50名程だったと思うので「平和と登山」のゼッケンをつけた労山の参加者は多くを占めた。

今年の国民平和行進は核兵器禁止条約が発効して最初の平和行進だった。この条約の発効には多くの国の市民の運動が大きな役割をはたしたと言われている。日本では被爆者の粘り強い運動や、60年以上も「一歩でも二歩でも」と歩き続けてきた平和行進に参加してきた人々の願い



の願い

が通じたものと言える。

核大国が背を向けているので、その効果を疑問視する声もあるが、国連で採択され、現在条約の批准国が54か国となり次第に増えている状況からは、やがては日本を含め世界の国が批准し、核兵器のない世界へ向かうことは間違いないと思う。

## ■高城山と窯元散策

## ＜ゆっくりリズム＞

- 日 程：7月14日(水)
- 参加者：L藤原(千) SL尾内 小田 黒本 春本 平石 矢根 山本(清)
- 行動記録：駐車場9:45発～八上城跡(10:35着)11:00発～藤ノ木坂分岐(11:25着)～駐車場(12:00着)―立杭陶の郷駐車場(12:40着)13:25発～立杭陶の郷(13:30着)14:15発～窯元散策(14:20着)14:55発～立杭陶の郷駐車場(15:00着)

## ◆波多野氏の巨大山城 麒麟がくる「明智光秀激戦の八上城跡」を歩く 平石

今回の山行は、ずーと気になっていた丹波高城山を歩きました。高城山は、標高459mの朝路山、丹波富士とも呼ばれている秀峰です。

7月7日が悪天候のため、延期になった今日14日の天気は、真っ青な空に白い雲がモクモク！現地集合ということで、高城山前の駐車場に集合です。駐車場には大河ドラマの幟が何本か風にはためています。



登山口は、直ぐ近くにあり春日神社口から登り始めます。足元は、歩きやすくよく整備されていました。(森林組合の方々がされているそうです)高木樹の林の中をウォーミングアップしながら進みます。木漏れ日がとても気持ちよく夏の暑い時期には丁度いいところです。でも、頂上まで殆んど丸太の階段でした。階段はまだ新しく整備されていて登り易かったです。

頂上は、本丸を中心に全山に完備した模範的な防御構築が施されていたらしく、戦国時代の代表的な山城で、本丸付近には当時を忍ぶ石垣が僅か残っていました。360度見晴らしの良い頂上からは、篠山城跡、愛宕山、小金ヶ岳が見え、また金山の頂上には金山城があり、南の八上城



と北の黒井城の連携を断つために明智光秀によって造られたとのこと。遠い昔の戦国時代に思いを馳せながら・・・篠山市街を見下ろしました。景色を堪能し、写真を撮ったりゆっくり休んだ後、下山開始しました。

下山の途中、リーダーは雲行きと遠くに聞こえる雷音ゴロゴロをレーダーでチェックし、山で雷に遭った時のワンポイントアドバイス！を実践。

私たちも見習って試行し、ひとつ勉強しました。

雨にも、雷にも遭わずに予定通り立杭陶の郷へ各自の車で移動し、昼食とお買い物を楽しみ、最後に最古の登り窯を見学して15時現地解散しました。

短時間で、たくさん楽しめるコースで嬉しかったです。リーダー、ご一緒いただいた皆様、お世話になりありがとうございました。

## ■「初めての山歩き教室」終了山行 氷ノ山

●日 程：7月17日(土)～18日(日)

●参加者：[教室生]A班・高崎 田中 仲田 西村(珠) 西村(裕)

B班・立花 松本 森川

[サポート]A班・L砂川(延) SL佐々木 藤原(千) 安田

B班・L尾内 SL垣内 矢根

●行動記録：[17日]善防公民館 9:10 発一鉢伏高原①(11:20 着)11:35 発～高丸山(12:10 着)12:30 発～鉢伏山(13:10 着)13:37 発～鉢伏高原②(14:30 着)14:35 発一民宿やねや(15:00 着)

[18日]民宿やねや 6:00 発一東尾根登山口(6:25 着)6:31 発～避難小屋(7:10 着)7:20 発～神大ヒュッテ(8:50 着)9:30 発～氷ノ山(10:10 着)10:35 発～氷ノ山越(11:35 着)11:45 発～地藏堂(12:45 着)12:55 発～親水公園登山口(13:35 着)

### ◆終了山行に参加して

### 教室生・松本

2021年7月17日(土)～18日(日)「初めての山歩き教室」の締めくくりとして鉢伏山、氷ノ山に登りました。お天気は梅雨も明け、素晴らしい青空の朝となりました。

朝9時集合だったので、「10分前に着けばいいかな」なんて思っていたら、皆さん既に集合し車に荷物も積みこまれ、もういつでも出発できる状態で私を待っていてくださいました。申し訳なく、以後気をつけなければと反省しました。

1日目はまず高丸山へ登り頂上で各自用意したお弁当を食べ、その後鉢伏山へ登っていくというコースでした。今まで登った山とは違い、冬はスキー場になる所なのでまるで草原の中を歩いているようで、ちょうど良い風も吹いていてとても爽やかな気分になりました。下山時は途中からゲレンデを降りていくので、「段ボールがあったら滑って降りられるかなあ」なんて笑いながら歩いていました。



宿である「やねや」さんに着くと奥さんが笑顔で出迎えてくださり、お風呂が用意できている

のでどうぞという嬉しい言葉に感激。早速汗にまみれた身体を洗い、たっぷりのお湯につからせていただきました。夕飯まで時間があつたのでお部屋でいろいろお話ができ、とても楽しかったです。夕飯は「鉢伏鍋」で鶏肉と鴨肉を挽いたつみれ・猪豚・鴨肉・お野菜をお出汁で煮るというものでした。お出汁がさっぱりとしていてとても美味しかったです。麺をいれたり、丼に雑炊まで。すっかり満腹になり、疲れていたのもあって早々に眠ってしまいました。

2日目はいよいよ氷ノ山です。山の名前をよく知らない私でさえ聞いたことがある山です。ワクワク・ドキドキしながら登山口へ入って行きました。前日とは違い「THE 山登り」という感じで、休憩予定の東尾根避難小屋や神大ヒュッテに早く着くことを願うのみでした。神大ヒュッテでやねやさんで作っていただいたお弁当を食べ少し生き返りましたが、ここが頂上ではないことを思い出してため息。力をふり絞り頂上目指して出発です。もう声を出す元気もありません。やっと着いた頂上には大勢の人がいて、やはり人気の山なんだなあと再認識しました。頂上での景色は登りのしんどさも吹き飛ばすほど素晴らしいものでした。

後は下りのみ。今まで教室で登った山では下り始めるとあつと言う間だった感じがしていましたが、今回はそうはいきません。途中石だらけの長い下りがあったり、垂直にかけられた梯子を降りたり、小川を渡ったりと、とにかく長く長く感じました。最後の方には足の先が痛くなってきて踏ん張りがきかず、よろめくことも数度。それでも木陰の中の涼しい空気と時折聞こえる鳥の声に癒されました。なんとか下りきって平地に着いたときは、しゃがみ込んでしばらく動けませんでした。やねやさんへ戻り、お風呂に入れたことが本当にありがたかったです。

2日続けての山行は初めてでしたが、不思議と翌日の月曜日はすっきりとしていていつも感じる筋肉痛もそれほど感じず「すこ～しは慣れてきたのかな」なんて思っています。

教室の日程を終えて、期間中ずっとお世話いただいた山遊会の皆様に心からお礼を申し上げます。これかも自分のペースでゆっくりと楽しみたいと思います。

## ◆好天に恵まれた終了山行

藤原(千)

1日目の鉢伏山は、明るい緑色がとてもきれいな草原状のなだらかな山容で、軽快に歩けた。会長は明日の氷ノ山登山のためのウォーミングアップ用に、いい選択をされたなと思った。涼やかな風に乗ってたくさんのトンボが飛び交い、南に氷ノ山が大きく見えた。下山時を通ったスキー場は意外に歩きにくく、この日一番疲れた場所になった。

翌日も好天に恵まれ運がいい。神大ヒュッテまでは遠く、やっとの思いでたどり着く。ゆっくり昼食タイムを過ごし、

ふっくらご飯の美味しい「やねや弁当」で復活した。その後歩きにくい箇所が多々あったけれども全員難なくこなし揃って登頂、笑顔で会長とハイタッチ！そしてとびっきりのご褒美がいただけた・・・山頂からの超一級の大展望！・・・数えきれない山々の中に日本海も顔をのぞかせな



んと素晴らしい光景！下山にとりかかって間もなく、前方に薄っすら島も確認でき、何島だろうと話題になった。帰宅後に調べてみると、それは隠岐の島だとわかりいっそう感激した。「あずきころがしの難所はどこ？」と教室生さんらの声が聞こえてくる。地蔵さんを過ぎていよいよ28曲がりの急坂が始まり、特にゆっくり慎重に歩き続ける。不動の滝、布滝を遠めに見て無事に親水公園に下山した。

サポート参加であったが、教室生の皆さんはしっかりした足取りで何のお手伝いをする事もなく、一緒に登山を楽しむことができた。近場の氷ノ山での終了山行は、移動距離が短く時間に余裕ができて、なかなかいいなと思った。運転していただいた3人方はじめ、皆様大変お世話になりました。

## ■見野古墳群・小富士山巡り 神戸新聞社見学

●日 程：7月27日(火)

●参加者：L森本 SL須増 天野 尾内 小田 笹木 島谷 砂川(美) 立花 春本 平井 安田 矢根 吉村

●行動記録：御着駅8:30 発～見野古墳群(9:00 着)9:50 発～小富士山(10:40 着)11:00 発～宮山古墳・埋蔵文化財センター(11:40 着)12:30 発～神戸新聞社(12:55 着)14:10 発～御着駅(14:30 着)

## ◆山遊会、コロナと猛暑の中、社会勉強に行く！

笹木

今日も暑い！ミンミンゼミの声を聞きながら御着駅から歩き出した。町内案内板を見ながら、リーダーから今日の行程の見どころの説明があり「まず、国内でも珍しい踏切、新幹線と在来線の線路を同時に越えます」と言われ、歩き出して間もなくその踏切に着いた。リーダーの掛け声のもと、右側一列になって渡り始めたが、真ん中あたりでカンカンと警報が鳴りだした。「えっ！？まだ渡っていないよー」と焦る心。頭の中に、数日前関東で起きた“ながらスマホ”による踏切事故がフラッシュバックした。焦って駆け足になりながら前を見ると、警報が鳴っているのに遮断機が下りていない！よく周りを見ると線路は閉鎖されていて、引き込み線になっている線路だった。その真上を新幹線が走っている。あー、やられたー！！

それから、しばらく旧国道を南に歩いて30分程で見野古墳群の看板が見えた。ここで見野の郷交流館まで来ていた他のメンバーと合流し、大年神社の境内でストレッチをしてスタートした。神社のすぐ裏手に見野古墳群があった。トイレが設置された公園があり、地元の方が草を刈り綺麗に清掃されていた。この中でひと際目を引く大きな古墳は、姫路の石舞台と言われ、天井や奥室側壁が一枚岩で出来ており、この古墳群の中では一番最後、7世紀中ごろに作られたものらしい。4～15号墳まで自由に見学した後、小富士山に登った。とりつきから急な階段を登っていく。

すでに陽は高く、汗が滴りハァハァ言いながら登った。途中の東屋で一息ついて山頂に。小富士山は標高は低いが見晴らしは良く、白浜から妻鹿にかけての街並みや家島諸島、播磨の海がすぐ近くに見えた。

続いて訪れた宮山古墳は垂飾付耳飾りが発掘されたことで有名で、被葬者は朝鮮半島に所縁のある人物と推測されている。東屋で昼食を摂った後、すぐ隣の埋蔵文化財センターに行く。

手指消毒と検温をして中に入り見学する。姫路市内には旧石器時代から江戸時代まで、約 1200ヶ所の遺跡があり、毎年 500 種以上の出土品が発掘されているとのこと。その古来の文化の延長線上に自分が存在していることを意識し、自分の時代を通過して何百年、何千年後かに未来の人は何を発掘するのだろーかと、ふと思った。その時まで地球は？人類は？存在するだろーか。地球は滅びて、全く別の星で新しい生物が又、石器時代から紡いでいるかもしれない。



13時に神戸新聞播磨製作センターに着いた。神戸市西区、西宮市に続き県下3番目の神戸新聞印刷工場で、2019年5月から稼働して

いる。朝刊48万8700部、夕刊14万8000部、県下No.1の印刷部数で、全体の4割を印刷しているとのこと。ヘルメットを被り、最初に、一秒間に16部の新聞が刷れる高速印刷、輪転機室を見学した。頭上のベルトコンベアーで刷り上がったばかりの夕刊が綺麗に並んで回っていた。次の立体紙庫ではドラム缶のような巻取り紙が一週間分(159本)収納されていた。巻取り紙1本は重さ1トン、長さ19kmで40ページの朝刊を5500部印刷できるという。明治31年の創刊以来、毎日休むことなく発行し、阪神淡路大震災の時も休まなかった。その時の教訓を生かして、震度7にも耐えるという免震構造の地上三階建ての建物は、玄関のコンクリート階段の隙間から覗くと宙に浮いているように見える。地下ピットに入ると41個の免振積層ゴムが、重量1万三千トン(城23個分)の建物を支えていた。その地下ピットの柱に、大震災時の新聞紙面が projection mapping で映し出されていた。

その後部屋に戻り、新聞が出来上がるまでをDVDで視聴し、最新の印刷制作技術について学んだ。最後に、出来上がったばかりの夕刊と、A3サイズの号外新聞を頂いた。トップ面に「ようこそ高御位山遊会の皆さん」と私達の集合写真が載っていてビックリ！山遊会の活動紹介と見学の行程が、センターのPRを交えて記事になっていた。これは良い記念になる。開催中の東京オリンピックの朝刊記事と共に額に入れて飾っておくことにしよう。余談ですが、新聞一部の情報量は文庫本一冊に匹敵するそうで、隅から隅までしっかり読んでほしいと言われていました。

最後にうまいもん横丁でお好み焼きを食べ、お腹も頭もいっぱいになって山行を終えた。

古き古墳から最新の印刷技術まで、地元で学び、暑い中ではあったが充実した一日でした。企画下さったリーダー様、皆様、お世話になりました。

## ■草木川遡行①

●日 程：7月31日(土)

●参加者：L藤本 SL安田 尾内 佐野 高島 徳本 春本 平石 福原 村上 森下 山本(清) 矢根

●行動記録：草木川駐車地9:40発～入渓地(10:00着)10:10発～上陸地点(12:40着)

## ◆納涼草木川遡行

春本

梅雨が明け蝉がけたたましく鳴く真夏は暑さと脱水で外出を控えたり、高地の避暑地や海水浴に行きたくなる。とても低山での山行となると身体に厳しい。

草木川での川登りは、暑さを避け足腰を鍛えるこの時期限定であり、回を重ねるごとに参加者が増える人気の山行です。

但し川の石は滑りやすいのでフェルトソール靴が必要で、私は鮎掛けで5年前まで使用していた装備で、パットの入ったタイツや専用アンダーベストまでもと揖保川での釣師スタイルとなって皆とは浮いた感じでした。他の山行者が居ないのでまあいいか。

集合時間に遅れそうなので途中連絡が、圏外で繋がらずリーダーが移動して連絡出来たと、のっけから迷惑掛けてしまいました。結局15分遅刻でスイマセン。

草木ダム湖が減水なので、梅雨が明けてから雨が降っていないみたいで川の状態はまずまずなのかな、いよいよ入川です。冷たさが足元から浸み込む感覚がたまらない。

暑苦しいセミの声も爽やかな気分で歩いていきます、コースは適度の落ち込みあり深みありとリーダーが車で道すがら視つけたらしく、いいところを選ばれたと思います。

普段山で使った筋肉以上に体幹バランスが必要で、足元をすくわれない様にわずか1km弱の川歩き。この日は深くても私の胸あたりの水深、最初は遠慮気味の方も全身ずぶ濡れ。

温泉みたいに首まで浸かったり、堰堤を三点支持でずり落ちながら水をかぶる楽しさは、普段山での谷渡りでは濡れようとしない大人と違って、童心に返った気分を味わえます。

見晴らしのいい処では無いけれど、せせらぎの傍で食べる昼食もなかなかいい感じ。山では稜線を楽しみますが、ここでは“涼川”でしょうか。溪谷の岩もいい。



残念なのは大水の爪あとの橋の残骸や鉄筋が所々にあり、接触して怪我をしないよう気をつけたい。また水の中は何があるのか分かりづらいので私は偏光めがねで対処します。

熱中症になりやすく、爽やかに楽しめる季節限定の人気企画を、多くのメンバーが参加してもらえればいいなと思います。



## ■草木川遡行②

●日 程：8月8日(日・祝)

●参加者：L藤本 SL矢根 尾内 乙坂 小田 笹木 佐野 田中(重) 田中(由) 野村 橋本(万)  
春本 福原 村上 安田 山本(清)

●行動記録：草木川駐車地 9:55 発～入渓地(10:15 着)10:20 発～上陸地点(12:00 着)

### ◆わらじ < 自靴 < 地下足袋 < 沢靴

笹木

子供の頃、夏休みになると、一日中川に入って遊んでいた。その光景を懐かしく思いながらこの山行に参加させてもらった。

流石に裸足はダメで沢靴がいる。無ければ「地下足袋」でも「わらじ」でもいいと聞いたがどちらも持っていない。あちこち探し回って、最後に立ち寄った普通の靴屋で、子供用のビーチサンダルと並んで置いてあったゴム底の沢靴を見つけ、自分の足に合ったので即買った。現地について、みんなの靴を見ると、流石に万全の体勢でした。

草木ダムの上流から河原に下りる。想像していたより川幅は広く、中央を緩やかに澄んだ水が流れていた。ワクワクして早速水に入る。ひんやり感が一気に足から脳に伝わり「気持ちいい〜」。童心に帰ってジャブジャブ歩きたかったが、川底は大小の石がゴロゴロしていて、コケも付いて

滑りやすかった。新品の沢靴は、靴底が薄いので、石の形がダイレクトに伝わり分かりやすかったが、石を踏み外したりすると、足の側面まで石が当たり痛かった。それならば、石が乾いた歩きやすい所を歩いて行けばいいのだけど、今回は沢歩きがテーマ、あえて、流れの早い所、水の深い所を選んで歩くことにした。光が反射すると水面下の様子が見えないので、足で探りながら、忍び足で歩いた



が、慣れてくると、石の形や並びをよく見て、着地ポイントを探して歩くのが面白くなった。水深のある所では、迷わず首まで浸かって泳いだが、背中リュックが浮になり丁度良かった。水が激んでいる所では、より大きなメダカを探して、ハンカチで掬って遊んだ。深い所には10センチ以上の大きな魚もいたが流石にそれは掬えなかった。ここで新しい発見！川底に張り付いて泳ぐ小さな魚を、私は「ゴリ」と呼んでいたが、こちらでは「どんこ」と言うらしい。あとで調べてみたら、「どんこ」が正解でした。

あっという間に終点近くに着き、岩場へ上がって弁当を食べ12時に川から上がった。解散して車に乗った途端から雨がパラパラ、次第に大粒の土砂降りになった。なんと良いタイミング！世間はうだるような暑さの中、のどかな溪流で涼しさに癒された一日でした。暑い時期にはこんな山行もいいですね、リピーターが多いのも頷けました。来年こそはちゃんとした靴を用意なくっちゃ！